

FY2019 Annual Report for International Joint Research with Research Fund
International Joint Digital Archiving Center for Japanese Art and Culture (ARC-iJAC),
Art Research Center, Ritsumeikan University

Date (year/mm/dd): _____

1. Title of the Research Project	
A Study on Regional Learning Support System for the Changes of Townscape of Kyoto	
2. Research Leader	
Name	Organization and title
Akira TAKAHASHI	Specially Appointed Assistant Professor (Full time) of Cybermedia Center, Osaka University
3. Co-researcher (Total: 3 persons)	
Name	Organization and title
Keiji YANO	Professor, Ritsumeikan University
Naomi KAWASUMI	Associate Professor, Ritsumeikan University
Manabu INOUE	Visiting Researcher, Ritsumeikan University
Hiroataka SAITO	特任助教, Ritsumeikan University
Shumpei YAMAMOTO	研修生, Ritsumeikan University
Tadashi OSUGA	President, KOEI-DO Co., Ltd.
Asanobu KITAMOTO	Associate Professor, National Institute of Informatics

4. Overview of the Research Project (About 150 words) Note: If you have changed your project since the time of application submission, please write clearly where you made changes.
<p>戦後から現在まで、市街地は画一的な宅地開発や建築活動が進み、京都らしい町並み、景観は失われつつある。また、地域の景観形成の方針を考える上で、その現状や変化を分りやすく客観的に伝える資料は重要であると考えられるが、戦後、高度経済成長以降の京都を取り巻く状況の変化は急激であり、その変化を地域住民が理解しやすい形でまとめられた資料は希少となっている。</p> <p>本研究は地域学習の観点から、デジタル・アーカイブされた京都市電データベースや近藤豊写真資料を活用し、古写真と現在の町並みを比較することで、地域の景観形成の歴史的な脈を学習し、理解を深めることを支援する資料の収集とシステムの検討を行う。</p>
5. Overview of the Research Results Note: We may use this section for the Center's PR.

戦後から現在まで、市街地は画一的な宅地開発や建築活動が進み、京都らしい町並み、景観は失われつつある。また、地域の景観形成の方針を考える上で、その現状や変化を分かりやすく客観的に伝える資料は重要であると考えられるが、戦後、高度経済成長以降の京都を取り巻く状況の変化は急激であり、その変化を地域住民が理解しやすい形でまとめられた資料は希少となっている。

本研究は地域学習の観点から、デジタル・アーカイブされた京都市電データベースや近藤豊写真資料を活用し、古写真と現在の町並みを比較することで、地域の景観形成の歴史的な文脈を学習し、理解を深めることを支援する資料の収集とシステムの検討を行うものである。2019年度は、三条通に残る近代建築を対象に「KYOTO メモリーグラフ（北本朝展氏開発）」のイベントを実施するとともに、それに必要な古写真の収集整理（約100点）を実施することで、KYOTO メモグラフの京都市電写真以外の古写真の適用等を検討した。同時に、京都市電データベースの公開資料数を9100点へ拡充した。

6. Research Activities

Articles and Presentations

- Akira Takahashi, Shumpei Yamamoto, Hirotaka Sato, Naomi Kawasumi, Manabu Inoue, Keiji Yano and Asanobu Kitamoto “Learning Method that Facilitates User Understanding of Changes in the Kyoto Townscape: Utilizing a Smartphone Application with the Kyoto City Tram and Bus Photograph Database” *Proceedings of the International Cartographic Association, 2, 2019. (ICC 2019), Tokyo, Japan.* pp1-8, <https://doi.org/10.5194/ica-proc-2-127-2019>
- 高橋彰、山本峻平、佐藤弘隆、河角直美、井上学、矢野桂司、北本朝展“デジタルアーカイブ写真を活用した景観理解支援システムの研究—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—”日本建築学会、第18回建築教育シンポジウム、建築教育研究論文報告集、NO18, pp 35-41, 2018.11
- 山本峻平、高橋彰、佐藤弘隆、河角直美、矢野桂司、井上学、北本朝展「古写真データベースのまちあるきへの活用」、日本地理学会発表要旨集 No93、2018、57頁
- 山本峻平、高橋彰、佐藤弘隆、河角直美、矢野桂司、井上学、北本朝展「古写真データベースのまちあるきへの活用」、日本地理学会 2018年春季学術大会（東京学芸大学）2018.3
- 高橋彰、河角直美、矢野桂司、山路正憲、山本俊平、佐藤弘隆、今村聡：「クラウドソーシングを活用した写真資料（古写真）の地理情報等の同定方法の検討とその課題—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—」、地理情報システム学会講演論文集、Vol.27, pp.4, (CD-ROM)(2017)
- 高橋彰、矢野桂司、高木良枝、佐藤弘隆”第IV期京町家調査を用いた空き家化の要因に関する研究”日本建築学会大会学術梗概集、No.7148, pp401-402, (広島)2017.8
- 山本峻平、佐藤弘隆、高橋彰、河角直美、井上学、矢野桂司「デジタルアーカイブ写真のGIS化とその活用—「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築—」、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 Vol.2017No2、2017、199-206頁
- 山本峻平、佐藤弘隆、高橋彰、河角直美、井上学、矢野桂司「デジタルアーカイブ写真のGIS化とその活用—「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築—」、じんもんこん 2017 人文科学とコンピュータシンポジウム(大阪市立大学)2017.12.10 ポスター発表

Symposiums and/or research meeting you organized

- “近代建築WEEK2019 スマホで三条まちなみの変遷発見ラリー”【主催】京都歴史文化施設クラスター実行委員会、京の三条まちづくり協議会、NPO法人京都景観フォーラム【協力】立命館大学アート・リサーチセンター、ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター、(一社)京都府建築士会まちづくり委員会、2019.9.28-29、2019.10.5-6
- 「KYOTO メモリーグラフ」の実証実験【実施日】(1回目)2018年10月21日(日)(2回目)2019年3月3日(日)まちづくりオープンキャンパス「同時開催イベント」として実施【参加者数】(1回目)23人(2回目)6人【共催団体】システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター、立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム
- KYOTO メモリーグラフ トークセッション【実施日】2018年10月21日 16:00-18:00【来場者数】35名(実験参加者以外も聴講可能)【共催団体】システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター、立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム
- (再掲)市電の今昔写真と古写真パノラマ写真から京都の町並みの変遷をたどる展示会「今昔写真から見える京都の変遷～市電の音が聞こえる風景と現在～」【実施期間】2019年2月17日-25日(2月20日ギャラリートーク)【実施場所】ひと・まち交流館京都 1階展示コーナー【来場者数】826名【共催団体】立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム

- ・ (再掲)ギャラリートーク「今昔写真から見える京都の変遷 ～市電の音が聞こえる風景と現在～」【実施期間】2月20日19:00-20:30【実施場所】ひと・まち交流館京都 地下1階 ワークショップルーム【来場者数】46名【共催団体】立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム

Lectures to the general public

- ・ 高橋彰, 中村浩史“京都市電写真アーカイブとその活用/KYOTO メモリーグラフ” 画像関連学会連合会 第6回秋季大会(京都工芸繊維大学) 2019.10(招待講演)
- ・ 高橋彰「記憶の継承プロジェクト～古写真アーカイブとその活用～」平成30年度住みよいまち&絆研究所 総会・研究フォーラム2018年7月(招待講演)

Appearances in/contributions to mass media

- ・ 「市電の風景 スマホで変遷探る」2018年10月13日京都新聞朝刊
- ・ 「今昔写真から見える京都の変遷－市電の音が聞こえる風景と現在」2019年2月20日京都新聞朝刊
- ・ 「市電に見る京の今昔」2019年2月25日京都新聞朝刊
- ・ 「鳥居撤去や道路拡幅・・・市電に見る京都の今昔 愛好家が写真展」2019年2月24日14時28分京都新聞WEB版
- ・ 「懐かし市電京の今昔」2019年2月25日読売新聞朝刊
- ・

Competitive grants other than KAKENHI

- ・ 高橋彰, 矢野桂司, 河角直美, 山路正憲, 佐藤弘隆, 山本峻平「メモリーハンティングを活用した戦後から現在の京都の景観変化に関する研究－京都市電のデジタル・アーカイブ写真を事例として－」2018年度情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設公募型共同研究「ROIS-DS-JOINT」,2018年6月26日～2019年3月31日, 研究代表
- ・

Databases

- ・ 令和2年3月 京都の鉄道・バス 写真データベース公開・拡充 資料数約1900点⇒約9149点公開
平成30年2月「KYOTO メモリーグラフ」GooglePlayにて公開。平成31年9月三条通のプロジェクトを公開。